

---

# 1 3 日間で名文を書けるようになりたい

鱈橋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

13日間で名文を書けるようになりたい

### 【Nコード】

N6154Y

### 【作者名】

鱈橋

### 【あらすじ】

高橋源一郎著『13日間で「名文」を書けるようになる方法』  
を実践。

文章は読まれることを意識して書かなくてはならない、との記述に  
したがう。恥を忍びきれずいなくとも公開。

## 一日目 『私』 を書く

一日目、『私』

私の趣味は映画鑑賞、と読書だ。それと、人並みに音楽鑑賞もするし、アニメも見る。

最近の言葉で言うと、コンテンツ消費型の趣味といったところだろうか。自分で自分の趣味を分析するに、現実逃避の面が強いように思う。

たとえば映画鑑賞。よい視聴者は、映画を見終わった後、何らかの感想を抱き、以後の生活の一部としていくと思う。なにかの教訓を得たり、知恵を授かるでもいいし、すこし気分が高揚し、憂さが晴れるだけでも十分に価値がある。

私の場合はというと、映画を見終わった後は、それなりに気が高ぶったりもする。しかし、何も持ち帰ってはいない。ちょっとした感想を持つにしても、次の日から、やる気を出したりすることはない。持ち帰るところか、魂の一部をおいてきてしまったような気さえする。見終わった後、空虚な気持ちになり、現実の自分の形骸化に耐えられない。

とにかく、何か物語りに触れているときは、空っぽの自分に気付かずに済むというか、むしろ物語の中にこそ本当の自分がいるような気さえする。置き忘れていた歯車をはめ、再び細工人形が踊りだすような感覚。そして、現実に戻るときには、あらゆるパーツを置き去りにしてくるのだ。

端的にいつてしまえば中二病が治っていないわけだ。こんなダメな人間は本当の自分ではなく、どこかヒーローになれる場所がアルはずだと、そんな夢想が十年経つても拭えずにいる。

思えばそんな物語が好きだった。ドラえもんの映画で、宇宙開拓史というのがあった。のび太たちが別の惑星で活躍する話だ。舞台が

地球より低重力のため、地球人ののび太は、そこでは怪力のスーパーマンになれるのだ。

のび太の偶然めぐり合った星のように、私にも本当の居場所があるのではないだろうか。

もちろん現実には、そうではないのは知っている。頭ではわかっている。でも心の奥で納得できてはいない。

もういい歳だ。いい加減に現実の上生きていくしかない諦めなくてはならない。いつまでも幻想に片足を突っ込んだままでは生きて行けないのだ。

でももしかしたらと、映画館に通ったりモニターにかじりつき、ページをめくりながら、モーフィアスが迎えに来て、「君は救世主だ」といつてくれるのを待ち続けている。

二日目 『自己紹介』 を書く(前書き)

二日目といっても、連日―三日間の二日目ではないのだ。のべ十三日間のうちの二日目なのだ。けっして私の怠惰な性格の現れなどではない。そのはずだ。いや、そう信じたい。

## 二日目 『自己紹介』 を書く

前回のお題が『私』、そして今回が『自己紹介』となると、内容が重複してしまう心配がある。そのため前回の話題である趣味と中二病にかんしては述べるのを控えようと思う。

さて、私の自己を紹介していこうと思う。しかし、自己とは何だろうか、日本人として述べるべきか、長野人として述べるべきか、それとも社会の隅の底辺にのさばるオタクとして述べるべきか、アプローチの仕方は様々である。

ここからアイデンティティに関する考察を広げることでもできるだろう。しかし私にはそこまで学があるわけではないので、これまでにしたいと思う。

ただ結論としていえるのは、私はよく言って思慮深い、悪くいつて考えすぎてしまうことがおおい性質なのだ。

自己紹介をしてください、といわれて、まず、自分のどの部分を紹介したのだろうかと煩悶し、さらには自分の自己とは何だろうかと思いを巡らせ、自己とは何だろうかと思いを馳せて、しまいには面倒になって考えるのをやめる。それぐらいの思考渋滞している人間である。

考えが浅はかなのは良くないことだ。と入っても私の思考の方向性は良くない方へと進みがちである。一つの物事、アイデアでも悩みでも、徹底的に考え、熟考を重ねても実を結ばないことが多い。なぜなら、私の想像力はネガティブな資質を兼ね備えているため、どうにも行動力が鈍ってしまう傾向が強い。

思いつきで行動する人を羨ましく思うことがある。その人は時に失敗し、恥を書くことも多いだろう。しかし成功することもあるはずだ。私の場合は考え倦ねた結果、何も行動せず、ただただ頭の中に夢想した狸の皮を数えるだけに終わるのだ。

こうして、私の自己の一部を紹介できたかと思うわけだが、文章

のまとめかたがわからなくなってしまうた。自己紹介なら、こんな人間ですがよろしくお願いします、  
としめるべきか、話を膨らませて、考察を広げるべきか、実に悩ましい所である。あと幾日かは考察をねらなくてはならないかもしれない。もしかしたらこの文章自体書くべきではなかったのかもしれない。

三目 課題が無いのでインターバル(前書き)

省みる

### 三日目 課題が無いのでインターバル

特に指定はないので、今までの文章を読み返してみる。一日目に書いた『私』。これはなかなか気に入っている。すこし固有名詞が出過ぎの巻はあるが、自分の素直な気持ちを含め、そのままにかけたと思う。もう少し詳細に書いても良いかもしれない。しかし、私の今の文章力では長い文では構成が取れないだろうから、今はコレが精一杯といったところだろう。

二日目に書いた『自己紹介』これは一寸反省すべき出来だった。個人的に見ると、特に悪い点はなく及第点だとおもえた。しかし、例文を読んで盲点を疲れた思いだった。

例文では、ですます調の文章が多かった。一方私の文章は、である調である。

文章を書く際は読者のことを意識しなくてはならない。そのことは重々承知指定売るつもりだったが、前回はそれがかけていたようだ。人物の印象を決める自己紹介。最初の一言から、である調で話し始めるとは偉そうにも程がある。

それと、だいぶ日が開いてしまった。忙しかったわけでもなく、それなりに暇を持って余していたはずだ。しかし文章を書く意欲がなかった。自分でも不思議なくらいに自堕落な日々を重ねている。コシでは、路頭に迷う日も近いと言うものだ。ほかにやれることもないのだから、ここはある種の諦観を見、道を狭めることによって、歩く指針とすべきだろう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6154y/>

---

13日間で名文を書けるようになりたい

2011年12月1日22時56分発行